

順正寺報 第十号

'92.8.24

秋季彼岸会 法要御案内

残暑きびしき候、貴家皆様には御健勝にて、

お過ごししの御事と存じ上げます。

さて、古来より日本民族の行事として親しまれ

て来た彼岸会（秋季）が近づいてまいりました。

当山「順正寺」でも壇信徒の総霊位をまつり、

仏恩報謝の念いをこめて、下記の通り『秋季彼岸

会法要』を厳修致します。

御承知の通り彼岸会は、「御先祖の徳をしのび、

今日自分がある事のお陰を喜ぶ」大事な行事です。

公私共御多忙とは存じますが、万障繰合せの上、

御参詣下さいます様お願い申し上げます。

合掌

順正寺 住職

江口貫照

記

九月二十六日（土）

『結願の日』

午後一時より

読経 法託話 おとこま

以上

※自宅の御仏壇にて読経を御希望の方は、御電話
を下さい。

彼岸入り 9月20日

お中日 9月23日（秋分の日）

結願 9月26日

※寺へ御遺骨をお預けの方は、彼岸中に（20日か
ら26日の間）必ず御参詣下さい。

尚、二十日（日）、二十三日（秋分の日）に御
参詣いただければ、本堂にて読経供養致します。

愚痴・ぐち・グチ……

順正寺坊守 江 口 久 子

去る二月初旬より始まりました当寺修復工事も間もなく一応の完成の日を迎えられるまでになりました。

七月のお盆の時、本堂と客殿の工事が出来上がり、棟梁に、「奥さん、もう掃除して良いから！」と言われ、夜中まで掛かって、お内陣から下陣、そして客殿の掃除をし、仏華を建て終えて、しみじみと阿彌陀様と向き合って座した時のあの感激、静寂の内ただ一人合掌し、現実なのか、それとも夢なのではないか、そんな気持ちの狭間に漂っていると、涙が止めどもなくあふれ、御縁をいただいた沢山の仏さま、私共の両親に「見ていて下さっていますね、順正寺が沢山の縁ある方々に支えられて、法灯を消すこともなく今日を迎えさせて頂きました。」とひたすら仏恩に感謝しておりました。

そして六月末より庫裏のほうの工事が開始しました。しかし、ことのほか厳しかった暑さと、連日の工事のため、心身ともに疲れて参りました。そんなやさき、棟梁が入院手術になるかも知れぬというアクシデントが有り、工事も大幅に遅れ、心配と不安でストレスがつのる一方、出てくるのは愚痴ばかりです。幸いな事

に検査の結果は何事も無かったとのことで一安心。昔ながらの職人氣質、一生懸命。順調に仕事も進み、これ以上の幸せはないはずなのに、何故か限りなく文句が出てくるのです。人間とは勝手なもので、特にこの私ときたら、自分の思っていたとりにならないとなると、特に三十数年目にして始めてもつことができたプライベート・ルームとなると念いもひとしお、次から次にと文句が出てきてしまうのです。思えば、今までは一切プライベート・ルームも無く、何もかもがごった返して不自由といったらこの上ない状態の中の生活でした。それでも決して、恥ずかしいとも、悲しいとも、惨めとも思ったこと無く、そんな毎日を通り過ぎていても、心だけはとても豊かでありました。

それが、今度は少し広くして、ある程度プライベートが守られるようにと増改築。これが最初で最後のことと、どんなにか楽しみにし、ほんの少しだけ私の希望を通してほしいと言っていたのに、それが一つ一つ不可能になり出したとき、そうなる止めども無く、何処から湧いてくるのか、愚痴が出てくるのです。

勝手なもので、何も無く、見栄を張ることもないときほど、張るほどの見栄すらないときほど人間は幸せで、少し、ほんの少しでも、『今より』と思った時に、

欲が出て、『見栄』を生じ、それによって、思うように行かないとなると、次々と愚痴が、文句が出てくるものようです。台所の無かった時分、子供がスプーンを落としただけでも外にあった井戸まで洗いに行き、雨や雪が降ろうものなら屋根のない井戸端でびしょ濡れになっていた頃。住職が台所を造ってくれたとき、あの時の子供達の喜びよう、幼かった我が子が、今晩はだれが台所に寝るか大騒動をしたり、母親がびしょ濡れになって井戸端で仕事をしている姿を見てくれたのでしょうか、「これで雨が降っても濡れないでお仕事ができるから良かったね」と言ってくれたとき、子供達を抱き締めて、頑張らなくてはと思ったものです。

本堂、台所、茶の間、何一つ文句がなく充分満たされているはずなのに、結婚以来始めて私のプライベート・ルームができるとなると、出るのは愚痴ばかり。人間、自分の思いどおりに行かないとこんなにも文句があるものなのかとつくづく思ってしまう。そして、一つ不足が出るとなにごとも全てが不足に思えてくる、そんな自分が情け無くどんどん落ち込んでしまいうのです。こんないやな性格の私なのか、これが本来の私の姿なのかと、悲しく思うのです。心身ともに疲

れてしまい、こんなにも愚痴が出るのか。いずれにしても悲しい事です。

少しばかり良くなると、こころも次々と欲望が生まれ、その欲望を制御する事ができず、どう仕様もなくなるものだと実感せずにはいられません。

そして今、あの、どう仕様もなかった、狭くて、プライベートなど守れる部屋もなかったときのほうが、私自身、心が豊かで、明るく振る舞っていられたような気がするのです。四畳半のお茶の間で掘ゴタツに入って、テレビがいつもついていて、まるで雑居生活。それでも、ただの一度も惨めと思ったことのなかったあの頃のほうが。

結局、我々夫婦が一番安眠できるところは、物がそこここに有って、すぐに手が届くような雑然としたお部屋なのかもしれません。約八ヶ月半、お茶の間で仮寝して過してしまいました。きっとここが私の安住の場なのかもしれません。

それにしても、なにが不足で愚痴ばかり出るのか、人間の欲望とは本当に悲しいものと、しみじみ思っているところです。

気が付いたことがあります。『愚痴』とはグチグチと文句ばかり言っている人、今の私みたいな人間を指

して、そんなところに語源が有るのかも、などと勝手に解釈して、そしたら、何かおかしく思えてきました。グヂグヂ、グヂグヂ。

『寺に住むものは、世の中のだれよりも業が深いために、如来様のお給仕役を勤めさせていただいているのだ』と、私が落ち込んでるとき、我が儘を言ったとき、そして、嬉しいと感謝しているとき、事有るごとに住職に言われ続けてきました。私の居場所は、この寺に入った時から如来さまが用意して置いて下さったようです。

今日（九月十日）、私の部屋が出来上がりました。掃除をしながら、ふと、この部屋にずっと居られるようになるときは、現役を引退したときなのかもしれない、そんな気がしました。私に用がなくなったとき。部屋と言う形はなくとも今の私には私を必要とする場所を順正寺の中に与えられている、その事を喜ばなくてはと思うのです。

お掃除をして綺麗になったこのお部屋、当分広間としておきましょう。何時でもお茶を召し上がりいらして下さい。そして、この私の愚痴話を聞いて下さい。

平成四年 九月十日

△口 堂手

『白色』白光の△△御案内

十月の白色白光の会は左記の通り、執り行ないます

◎日時 十月十三日（火） 午後一時ヨリ

◎会処 順正寺本堂

会では常時、会員を募集しています。皆で語り合い、学び合っていく楽しい会です。

詳しい事は当寺までお尋ね下さい。

『秋の一泊旅行』御案内

昨年の秋、好評のうちに執り行なわれた『秋の旅行会』。今年は少々足を延ばしまして、新潟の方まで一泊二日の予定で旅することとなりました。現在参加者を募集中です。十一月二十七日、二十八日の予定です。定員もありますので、御希望の方はお早めにお申し込み下さい。詳しくは当寺まで。

☎ 177 東京都練馬区石神井町三の十七の四
☎ 03 (3996) 2064

順正寺